

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ベネッセ三鷹大沢台保育園
施設所在地	東京都三鷹市大沢2-2-52
法人名	(株) ベネッセスタイルケア

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

どんぐり虫の探求（4歳児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）  
園庭にはバッタやカマキリなどさまざまな虫がやって来るため、子どもたちの多くが虫に興味を持っていました。園庭にはコナラの木があり、秋になるとどんぐりが落ちてきます。散歩先の公園にはクヌギがあり、子どもたちがどんぐりを拾ってくることもあります。ある日、袋に入れていたどんぐりの中に虫がいることに気づいた子が「この虫はどこから来たの？」と問い、その疑問から興味が深まったことがテーマ設定のきっかけとなりました。

## 2. 活動スケジュール

- ①どんぐり虫を調べる。
- ②どんぐり虫を観察する。
- ③どんぐり虫が入っているどんぐりの見分け方を実験する。
- ④どんぐり虫の飼い方を調べる。
- ⑤どんぐり虫を飼育する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 【素材・道具】 図鑑、虫メガネ、虫の飼育ケース、顕微鏡、
- 【環境設定】
- ・手に取れる場所にどんぐり虫が載っている図鑑を用意。
  - ・手にとれる場所に虫メガネ、顕微鏡を用意。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

秋の散歩で拾ったどんぐりを入れておいた瓶の中に白い幼虫がいることに気づき、「どこから出てきたのだろう？」という疑問をきっかけに、図鑑で調べたり虫眼鏡で観察したり、実際に飼育して成虫になるのを心待ちにする探究活動を行いました。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

どんぐりの中に「誰か」がいることを知った瞬間から、子どもたちの探求は始まりました。発見と驚き：「穴が開いているよ！」「中から白いのが出てきた！」と、どんぐりから顔を出した幼虫を食い入るように見つめる子どもたち。動くたびに「おーっ！」と歓声が上がり、手のひらに乗せて「冷たいかな？」「足はあるの？」と、五感を研ぎ澄ませて観察していました。

「どんぐりを食べて大きくなったんだよ」「お母さんはどこ？」といった疑問が次々に生まれました。「暗いところが好きかも」と箱の中にどんぐりのハカマを集めてベッドを作ったり、虫眼鏡を使って「口はどこにあるんだろう？」と細部まで調べようとする姿が見られました。幼虫が土に潜ろうとする様子を見て、「おうちに帰りたいのかな」「寝るのかも」と、自分たちの生活経験と重ね合わせ、優しく見守る慈しみの心が育まれていました。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

大人が正解を教えるのではなく、子どもと一緒に「どうしてだろうね？」と首をかしげることで、探求のプロセスを共に楽しむことができました。この「共感的なまなざし」が、子どもの発言をより豊かにしたと感じました。

「穴があるどんぐりには虫がいる」「土に潜るのは冬眠のため？」など、観察事実に基づいた予測（仮説）を立てる姿がありました。図鑑で調べるだけでなく、実際に触れて動く様子を見ることで、知識が実感を伴った学びに変化していました。

どんぐりという「植物」の中に「生き物」が宿っている不思議さを通して、自然界のつながりに触れる機会となりました。小さな命を大切に扱おうとする態度は、他者への思いやりにもつながる大切な育ちがあることに気が付きました。